

SHUNKEN 2010-07 38-02



駿建

2010年夏期号 Vol.38 No.2 日本大学工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科

2010年 関西研修旅行報告



旧山邑邸前にて

建築史・建築論研究室では、毎年2～3月にかけて関西研修旅行を開催しております。建築は実際に目で見て、肌で感じることで多くのことを知ることができます。この研修旅行ではそこに重点をおき、短期間で集中的に古代から近代にかけて、普段公開されていない建築などを見学します。また、魅力的なのがその場で先生方の解説、質問を通じて理解を深められることです。

日程：2010年2月27日（土）～3月3日（水）

参加者：学生36名 引率教員4名

見学先：

2月27日（土）

法隆寺（中門、金堂、五重塔、夢殿、伝法堂、etc.）、唐招提寺、東大寺（南大門、大仏殿、鐘楼、大湯屋、二月堂、法華堂）

2月28日（日）

当麻寺（仁王門、本堂、金堂、講堂、etc.）、大神神社（拝殿、etc.）、平等院（鳳凰堂、鳳翔館）、万福寺（三門、大雄寶殿、etc.）

3月1日（月）

修理現場（二条陣屋）、大徳寺（高桐院、孤蓬庵）、無名舎、京都芸術センター

3月2日（火）

東福寺（龍吟庵、方丈八相庭園）、聴竹居、同志社大学（彰栄館、礼拝堂、クラーク記念館）、同志社女子大学（栄光館、ジェームズ館）、佳水園

3月3日（水）

綿業会館、大阪ガスビル、旧山邑邸

今回の旅行では、他研究室の先生方やOBの方にも多数ご参加いただき、さまざまな視点から建築に対する意見を聞くことができる良い機会となりました。他にも、修理現場では、実際に現場で働いている方から当時の建築技術や修理上の問題点などに関する具体的なお話聞くことができました。普段、勉強している時にはわからない建築のありのままの姿を知ることができる数少ない行事ですので、興味のある方は来年参加してみてください。（幹事：秋澤吉祥、植村嘉仁、金澤 昭、木川正也、中村深至、福永 藍（M2）・建築史・建築論研究室）

カメラを捨てて旅に出よう。

清水 明（M1）

写真はたくさん撮らない方が良い。文頭からおかしなことをいうが、実際に僕が研修に参加して感じたことなので初めて書いた。目前にある建築をレンズ越しに見てしまうのはもったいない。これは僕個人の主観に過ぎないかもしれないが、カメラは不思議な機械で、被写体（建築）をレンズで捉え、シャッターを押す一連の動作が撮影者に錯覚的な満足感を与えているように思う。その建築をわかった気にしてしまう。一期一会という言葉があるように、旅先で多くを記憶しようとシャッターを押す機会が増えてしまうのだが、後に思い返すと当時のリアルな印象が抜け落ちていたり、時には写真から実感のない印象を後付けで脳内編集してしまったりするのだから人間の記憶認識というのもあてにならない。

来年参加する人には写真は後の勉強のためのメモ程度と考えて、自分の目で建築と対峙してほしい。きっと建築に惹き込まれるほど、シャッターを押す機会は減っていくだろう。寺社建築の組物をよく視れば、その奥に何百年の時を緊張しあう部材間の力の流れが荒々しく現れてくるかもしれない。水流を瞬間凍結させたような流動体として建築が見えてくれば、撮影を忘れてそれを肌で感じようと触れたいはずだ。そうした体験を得るには相応の知識も必要である。例えば僕は解説を受けるまで「桔木」という部材を知らなかった。桔木は屋根裏の野垂木と化粧垂木の間に差し込まれる材で、梔の原理によって軒勾配を作るものであるが、外部露出がなく視覚認識できない。しかし流れるような美しい軒反りは桔木を内部構造に組み込むことで現れるのだ。桔木を知ったことで建築が単なる物体から生きた流動体として僕に映ったのである。視るだけではわからないことがたくさんあるはずだ。

そして最後に聞くこと。寺の回廊で耳を澄ませばさまざまな音が聞こえてくる。足早な若僧たちの擦れ合う法衣や重い鐘の音、静寂も聴覚で認識するのだから音である。音感覚は写真で認識できない建築の空間表現だ。視ることは同時に聞くことであると思う。建築は視ること、聞くこと、触ること。カメラを捨てて旅に出よう。



重森三治作庭の東福寺方丈八相庭園



二条陣屋修復現場



村野藤吾設計佳水園にて

関西研修旅行で得たもの

奥田優人（4年）

私は今回初めて関西研修旅行に参加しましたが、その内容はとても素晴らしいもので旅行中は毎日が充実していました。何度か訪れたことのある建築もありましたが、実際の建築を目の前に先生方の説明を聞くことができるため、それまでとは違う視点で建築を捉えることができました。疑問に思ったこともすぐにその場で先生に聞くことができ、消化不良を起こさずすっきりしました。旅行に参加したことで、「なるほど、この建築はこう見れば面白い！」といった具合に、建築を見る目が肥えたように思えます。

タイトなスケジュールで多くの建築を数日間のうちに見ることができたわけですが、中でも私が一番気に入った建築は渡辺節が設計した大阪の綿業会館です。

綿業会館は綿業関係者のための倶楽部建築です。外観は素朴なイタリア・ルネッサンスのバラツォを思わせるものですが、一度中へ入ると内部の豪華さに圧倒されます。細部の至る所にこだわりが感じられ、品の良い雰囲気がある所にはあります。倶楽部建築とはまさにこういうものなのでしょう。とくに、地下のモザイクタイルや2階の談話室の奥のタイル・タペストリーは思わず見とれてしまうほどの美しさを放っています。

綿業会館を見て、改めて建築における素材の大切さというものを実感しました。壁も天井も床もすべて白く塗ってしまうといった安易な表現とは違って、あらゆる部分を素材という基本的な要素から計画することで空間全体を豊かなものに行っているのがわかります。普段スチレンボードで模型を作っている私たち学生は、色や素材を知らなすぎるように思います。手に触れられる実際のモノの力—素材の力を感じるのに、綿業会館は最高の建築だと考えます。

関西研修旅行では建築を見るだけでなく、先生方・先輩方そして他学年の学生との交流を図るのにもいい機会になりました。研修旅行のおかげか今も仲良くさせていただいています。仲間とともに建築を見て、そして建築について議論するといった経験ができたことを嬉しく思います。

関西研修旅行を終えて

高木智加（4年）

今回旅行を終えて一番の収穫といえるのは、自分の建築見学の仕方です。旅行の前半においては、先生の説明を聞いてそれをメモすることに必死になってしまっていました。しかし、それは違うとの指摘を受け、まずは建築を見る、そして話を聞いて後で覚えていた部分をメモする、というやり方に変えたら、覚えているところは旅行から帰っても覚えている、印象に残った部分でした。今更で恥ずかしい半面、建築に対する見方の間違いに気付けたので、とてもよかったと思います。

京都や奈良にはよく行っていたのですが、普段あまり行かないようなところにたくさん行けました。日本建築から近代建築まで、さまざまなものを見ることができました。普段、近代建築ばかりで、日本建築にはあまり興味が向かなかったのですが、日本建築の見学を通して思ったのは、日本建築は本当に難しいということでした。あの組物の構成を見て、日本の伝統技術のすごさに圧倒されました。この旅行で本当に理解できたとは到底いえません。

また山邑邸は、F.L. ライトが日本に遺した現存する唯一の住宅なので、今回の旅行で一番楽しみにしていました。ファサードは、ライト特有の幾何学的デザインがあらわっており、アジアの遺跡を思わせていました。山の斜面を利用していたため見渡しのよい場所で、斜面側には家族の集まるリビングやダイニングがあり、ライトの家族の集まる場所に対する思い入れが感じられました。造りつけの家具などは、違い棚を思わせる収納など和の要素を用いているため、洋風の空間に和がとりこまれていました。また、和室と洋室で高低差を設けて床座と椅子座の目線の高さを合わせるなど、細やかな配慮もされていました。応接や家族の集まるパブリック空間と寝室のプライベート空間を分ける「結界」を表す複雑な形の天井で空間の分離を視覚的に表現していました。また、住人・客人と女中のサービス動線を分けたり、高低差を与えたりすることで、身分の明らかな差を表す視覚的効果を感じることができました。

平成21年度 建築学科就職状況

建築学科就職事務室

概況

これから社会に出て活躍しようと期待に胸を膨らませている学生の皆さんには、2007年のサブプライムローン問題に端を発した2008年のリーマンショックは、時代の厳しさを強烈に思い知らせるものでした。求人を訪れてくれる企業担当者の熱心さとは裏腹に、一向に上向きそうにない社会状況に本当にどうなってしまうのだろうかと気をもむ日々が続きます。加えてトヨタ問題が浮上し、日本の技術に対する信頼性が揺らぐ事態に不安感を抱いた人も少なくないでしょう。

しかし、1年を振り返ってみれば、まずまずの就職状況であったといえるのかも知れません。内定率は、昨年に比べ全体的にわずかに減少していますが、その差はごく僅かです。逆に、女性の就職率や大学院の就職率は、むしろ昨年度を上回っています。大学院進学者の割合も若干ですが、増加しています。

求人時期と応募方法

日大本部の求人サイト「NU就職ナビ」の公開（2007年度からスター

ト）とは別に、建築学科が直接依頼を受ける求人件数は、ほぼ180件程度です。景気低迷といわれている中であって、それでも昨年度は過去2～3年を振り返っても、減少するどころか微増しており、このような時期だからこそ、企業は逆に優れた学生を求める傾向にあると感じることができます。ただ学生にとって大変なのは、求人時期がどんどん早まっていることでしょう。平成20年度においては、12～1月にかなり集中していた求人が、21年度でも12月が最多であることに変わりありませんが、10～11月にスタートし、3～4月に一端小休止した後、5～6月に次の山が来るといったように、いつまでも就職活動が続くといった印象です。加えて面談回数も増えているように聞いています。いわゆる就活スーツ姿の学生が日常的に目立つのもこうした表れのひとつです。数年前に担当をしていた頃でも12月から求人はありましたが、ほぼ3月に集中していた記憶があり、時期が早まっているだけでなく、会社側が状況を見ながら慎重に人選しているものと想像できます。

こうした情勢を受け、推薦による応募が少なくなり、自由応募が多くを占めるようになりました。企業側が学内で説明会を行い、卒業生を絞り込んで選考していくというスタイルも定着してきました。

就職内定者の内訳

大学院進学者を除く内定者の割合は、昨年度とさほど変わりませんが、職種別にみると、やはり社会情勢を反映した傾向を見ることができます。昨年度と比較してみると、建設業（15.9% → 16.5%）、設備（2.7% → 4.6%）、製造業（4.8% → 6.1%）が増加したのに対して、住宅（11.7% → 9.2%）、設計事務所・インテリア（16.8% → 14.1%）は減少しています。不動産（8.1% → 8.0%）、その

表-2 月別求人件数

	平成21年度	平成20年度
10月	10	4
11月	18	11
12月	36	52
1月	19	50
2月	21	21
3月	9	14
4月	7	6
5月	21	11
6月	26	6
7月	8	3
8月	3	0
9月	0	0
10月	1	0
11月	0	0
12月	0	0
1月	1	0
2月	2	0
3月	0	0
合計	182	178

表-1 就職状況の概要

注：()内は女子内数

	平成21年度			平成20年度		
	学部	大学院		学部	大学院	
		建築	不動産		建築	不動産
就職希望者数	195(55)	63(18)	12(5)	214(63)	51(10)	12(1)
就職内定者数	166(51)	57(14)	8(2)	186(56)	43(9)	12(1)
大学院進学者数(留学希望・その他含)	89(20)	14(1)	0	99(27)	5	1
就職・進学者数	255(71)	71(15)	8(2)	285(83)	48(9)	13
求人会社数	182			178		

他にはあまり変化が見られません。建設業にやや明るさが見えてきていると評価できる兆しはありますが、しかし、サブプライムローン問題の年、平成19年度と比べると、建設業も住宅産業、不動産業もまだそのレベルに回復していません。ただ、設計事務所・インテリアだけが大きく伸ばしているというのも不思議な気がします。これらは見方を変えれば、団塊世代の大量退職に伴う現象、一級建築士制度改定による影響を考慮した採用というようにも見てとれ、安心できません。

コース別の特色

コースごとの傾向が端的に表れているのが、進学者の割合と内定先業種の傾向です。進学率が高いのが設計・計画コース(44.0%)で、環境・構造コース(26.1%)はその6割程度、企画経営コース(37.5%)が両者の中間になっています。将来、設計の道に進もうと考えている人にとっては、以前にも増して大学院進学を希望する動機付けがあります。国際的な建築家教育が5年制であり、求人面でも大学院レベルが求められるようになってきたことが背景にあります。今度

の建築士法改定は、大学院の2年間をそのまま実務と認めていないため、大学院進学はむしろマイナス要因とも受け取られるのですが、それにも増して国際的な水準との整合性や高度な学習レベルの必要性を学生自身が感じとっているのかもしれない。

逆に内定率は、環境・構造コース(94.3%)、設計・計画コース(78.2%)、企画経営コース(74.1%)と逆転します。業種では、環境・構造コースが建設業を中心に設備など幅広く高い内定率を示しています。設計・計画コースは、設計事務所・インテリア、住宅、建設業などがやや多いものの突出した業種がないのに対して、企画経営コースは住宅を中心に不動産と建設業に集中しているのが特徴です。こうして見ると、建設業や住宅、設計事務所が核となっていることを改めて感じさせられます。

1・2年生へ

3年生や大学院1年生の就職活動が始まるのは、2～3ヵ月後ですが、建築分野の幅広い輪郭がようやく見えてきたところで、就職という具体的岐路の選択に迫られます。その時期が入学から3年も経ないでやって

くるわけですから、学生である皆さんにとっては堪りません。しかし、現実から目を背けることはできませんから、むしろ1・2年生にこそ意識してもらい、そこに立ち向かっていく準備を進めていく必要があるということです。ポートフォリオ作りも普段からコツコツ仕上げるよう心掛きましょう。

先行きが見えにくい世相を反映して、企業側は相変わらず採用人数を絞り、しかも優秀な人材を求めて、他社より少しでも早く動き出す傾向があります。より実際的な能力を求める企業側の採用条件と、今まで以上に自分自身の専門性を高めることで差別化を図ろうとする学生側の意識が両面で表れているように見えます。企業側は即戦力を求める傾向があり、新卒者だけに絞って採用するのではなく、経験者の募集など幅広い求人・採用が見られるようになってきました。本学建築学科は、層の厚い先輩たちのおかげで、幸い良好なレベルを保っていますが安心はできません。

基礎力とコミュニケーション力

就職の窓口となってくれる諸先輩

表-3 求人・内定者の内訳

	求人会社数				内定者数								内定者数割合
	大企業	中企業	小企業	計	大企業		中企業		小企業		計		
					学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
A 建設業	39	8	6	53	29(5)	13(2)	8(2)	1(1)	3(1)		40(8)	14(3)	16.5%
B-1 住宅	5	3	3	11	21(8)		6(2)	1	2		29(10)	1(0)	9.2%
B-2 不動産					14(2)	1	5(2)	1(1)	4(2)	1(1)	23(6)	3(2)	8.0%
C 設備	13	8	3	24	5(1)		5(1)	2(2)	3(1)		13(3)	2(2)	4.6%
D 設計事務所・インテリア	5	12	10	27	4(1)	5	3	9(1)	14(7)	11(1)	21(8)	25(2)	14.1%
E 建材・エンジニアリング	10	2		12	5(3)	3(2)	2(2)	1	1		8(5)	4(2)	3.7%
F コンピュータ・情報	6	3	1	10	1			1(1)	3		4(0)	1(1)	1.5%
G 製造業・営繕・その他	13	3	2	18	12(2)		5(4)		3(3)		20(9)	0(0)	6.1%
小計	91	39	25	155	91(22)	22(4)	34(13)	16(6)	33(14)	12(2)	158(49)	50(12)	63.6%
H 官公庁・大学				23							6(2)	6(2)	3.7%
法人				4							1(0)	0(0)	0.3%
I 進学(大学院・研究生・留学・その他)											89(20)	15(1)	31.8%
J 自営業											1(0)	1(0)	0.6%
総計				182							255(71)	72(15)	100.0%
											327(86)		

以上の統計は学部、大学院建築学専攻に関するものである。

注：大企業…従業員500名以上、中企業…従業員100名以上、小企業…99名以下、()内は女子内数、求人会社数…再募集は除く。

や諸企業の方たちと話していて感じることは、何も特別なことはないということです。基礎的な知識と技術を身につけ、物事に対して積極的に取り組む姿勢がどの程度のものであるのかが問われています。つまりとこ、向上心と協調性を有し、コミュ

ニケーション能力に富んだ人を望んでいることになりありません。しかし、本学の学生はどちらかというとおとなしく、目標に向かう強さがやや不足しているようです。他者とのコミュニケーションの中から、独り善がりでない自己の主張と可能性

を発見していく力、普段から一歩一歩の積み重ねを大切に、自分が得意とすること、興味あることに対して、失敗を恐れず取り組むことで自信を身につけてほしいと願っています。

(平成21年度就職担当：杉本省三)

表-4A コース別就職状況〈環境・構造〉

就職状況の概要

	学部
就職希望者数	87(14)
就職内定者数	82(14)
大学院進学者数(留学希望・その他)	29(4)
就職・進学者数	111(18)

求人・内定者の内訳

	内定者数				内定者数割合
	大企業	中企業	小企業	計	
A 建設業	21(2)	3	1	25(2)	22.5%
B-1 住宅	8(2)	2(1)		10(3)	9.0%
B-2 不動産	8	1	2(2)	11(2)	9.9%
C 設備	4	4(1)	2	10(1)	9.0%
D 設計事務所・インテリア	1	3	5(1)	9(1)	8.1%
E 建材・エンジニアリング	3(1)	1(1)		4(2)	3.6%
F コンピュータ・情報			1	1(0)	0.9%
G 製造業・営繕・その他	8(1)	3(2)		11(3)	9.9%
小計	53(6)	17(5)	11(3)	81(14)	73.0%
H 官公庁・大学法人				1(0)	0.9%
I 進学(大学院・研究生・留学・その他)				29(4)	26.1%
J 自営業				0(0)	0.0%
総計				111(18)	100.0%

以上の統計は学部に関するものである。
注：大企業…従業員500名以上、中企業…従業員100名以上、小企業…99名以下、()内は女子内数。

表-4B コース別就職状況〈設計・計画〉

就職状況の概要

	学部
就職希望者数	78(38)
就職内定者数	61(35)
大学院進学者数(留学希望・その他)	48(14)
就職・進学者数	109(49)

求人・内定者の内訳

	内定者数				内定者数割合
	大企業	中企業	小企業	計	
A 建設業	6(3)	3(2)	1	10(5)	9.2%
B-1 住宅	7(5)	4(1)	1	12(6)	11.0%
B-2 不動産	3(2)	3(2)	1	7(4)	6.4%
C 設備	1(1)	1	1(1)	3(2)	2.8%
D 設計事務所・インテリア	3(1)		9(6)	12(7)	11.0%
E 建材・エンジニアリング	2(2)	1(1)		3(3)	2.8%
F コンピュータ・情報			2	2(0)	1.8%
G 製造業・営繕・その他	3(1)	2(2)	3(3)	8(6)	7.3%
小計	25(15)	14(8)	18(10)	57(33)	52.3%
H 官公庁・大学法人				3(2)	2.8%
I 進学(大学院・研究生・留学・その他)				48(14)	44.0%
J 自営業				0(0)	0.0%
総計				109(49)	100.0%

以上の統計は学部に関するものである。
注：大企業…従業員500名以上、中企業…従業員100名以上、小企業…99名以下、()内は女子内数。

表-4C コース別就職状況〈企画経営〉

就職状況の概要

	学部
就職希望者数	27(3)
就職内定者数	20(2)
大学院進学者数(留学希望・その他)	12(2)
就職・進学者数	32(4)

求人・内定者の内訳

	内定者数				内定者数割合
	大企業	中企業	小企業	計	
A 建設業	2	2	1(1)	5(1)	15.6%
B-1 住宅	6(1)		1	7(1)	21.9%
B-2 不動産	3	1	1	5(0)	15.6%
C 設備				0(0)	0.0%
D 設計事務所・インテリア				0(0)	0.0%
E 建材・エンジニアリング				0(0)	0.0%
F コンピュータ・情報				0(0)	0.0%
G 製造業・営繕・その他	1			1(0)	3.1%
小計	12(1)	3	3(1)	18(2)	56.3%
H 官公庁・大学法人				1(0)	3.1%
I 進学(大学院・研究生・留学・その他)				12(2)	37.5%
J 自営業				1(0)	3.1%
総計				32(4)	100.0%

以上の統計は学部に関するものである。
注：大企業…従業員500名以上、中企業…従業員100名以上、小企業…99名以下、()内は女子内数。

表-5A 就職先の内訳〈建設〉

注：()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
鹿島建設							3	2	3	2	日本建設							1		1	0	
竹中工務店							2(1)		2(1)	1	土屋組							1		1	0	
清水建設								2	0	2	広島建設							2(2)		2(2)	0	
大成建設							5(1)	1	6(1)	1	横森製作所									1(1)	0	1(1)
大林組			1				3(1)		5(1)	1	平成建設							1		1	0	
戸田建設									2	1	工藤建設							1		1	0	
前田建設工業	2								1(1)	1(1)	1(1)	1(1)						1		1	0	
東急建設									3	1	3	1						1		1	0	
安藤建設									1		1	0						1		1	0	
長谷工コーポレーション									1		1	0						1		1	0	
奥村組											2(1)	0	2(1)					1		1	0	
銭高組									2(1)		2(1)	0						1		1	0	
五洋建設									1		1	0						1(1)		1(1)	0	
ナカノフドー建設									1	0	1											
総計													2	1	3	2	0	0	35(8)	11(3)	40(8)	14(3)

表-5B 就職先の内訳 (住宅・不動産)

注: (株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
積水ハウス							1(1)		1(1)	0	ららぽーとマネジメント								1		1	0
大和ハウス工業							4(2)		4(2)	0	日本総合住生活								1		1	0
三井ホーム							3		3	0	三洋ホームズ								1		1	0
住友林業							1(1)		1(1)	0	アーネストワン								1		1	0
森ビル						1		0	1	0	一条工務店								1		1	0
パナホーム						1		1	1	0	アキュラホーム								1		1	0
三菱地所ホーム							1	0	1	0	オープンハウス									1(1)	0	1(1)
三井ホームリモデリング						1		1	1	0	オープンハウス・デベロップメント								1(1)	0	1(1)	0
三井不動産住宅リース						1		1	1	0	セキスイハイム東海								2(1)		2(1)	0
住友林業ホームテック						1(1)		1(1)	0	0	セキスイハイム信州								1(1)		1(1)	0
タマホーム						1		1	1	0	オールシーコア								1		1	0
ジェイアール東日本ビルテック						1		1	1	0	ロイヤルハウジング								1(1)		1(1)	0
野村ビルマネジメント						4		4	4	0	第一ビルディング								1		1	0
鹿島建物総合管理						1		1	1	0	ゆとりフォーム								1(1)		1(1)	0
大成ユーレック						1		1	1	0	富士住建								1		1	0
大成サービス						1(1)		1(1)	0	0	タクトホーム								1(1)		1(1)	0
木下工務店						2(2)		2(2)	0	0	サジェスト								1		1	0
東急リハパブル						1		1	1	0	明和住販								1		1	0
スターツグループ						1		1	1	0	未来都市開発								1(1)		1(1)	0
スターツコーポレーション						1		1	1	0	ジェレックス・コーポレーション								1		1	0
スターツCAM						1(1)		1(1)	0	0	トーア建設								1		1	0
ボラス						2		2	2	0	東京組								1		1	0
レオパレス21						1(1)		1(1)	0	0	総計	0	0	0	0	0	0	0	52(16)	4(2)	52(16)	4(2)

表-5C 就職先の内訳 (設備)

注: (株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
新日本空調							1		1	0	TAKEUCHI								1	1(1)	1	1(1)
日比谷総合設備							2		2	0	オーテック								1		1	0
櫻井工業							2(1)		2(1)	0	ダイナナ								1		1	0
ヤマハサウンドシステム							1(1)		0	1(1)	清田工業								1		1	0
東テック							1		1	0	風道								1		1	0
小泉							1(1)		1(1)	0	田中事務所								1(1)		1(1)	0
総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13(3)	2(2)	13(3)	2(2)								

表-5D 就職先の内訳 (設計事務所・インテリア・コンサルタント)

注: (株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
久米設計							2	0	2	0	松村デザイン事務所								1	0	1	
佐藤総合計画							2	0	2	0	川口通正建築研究所								1(1)	0	1(1)	
山下設計				1			0	0	1	0	ユニー・プラネット								1	0	1	
松田平田設計							1	0	1	0	オンデザインパートナーズ					1				0	1	
東電設計							1	0	1	0	i2S2								1	0	1	
構造計画研究所							1	0	1	0	ムラヤマ								1		1	0
東急設計コンサルタント							1	0	1	0	シミズオクト								1		1	0
アール・アイ・エー							1	0	1	0	エスバス建築事務所				1					1	0	
協立建築設計事務所			1(1)	1			1	1(1)	2	0	国設計				1					1	0	
織本構造設計							1	0	1	0	アルク総合設計				1(1)					1(1)	0	
乃村工藝社							1	1	0	0	紫田積算								1(1)		1(1)	0
大塚家具							1	1	0	0	翔設計								1		1	0
イトーキ							1(1)	1(1)	0	0	窓建コンサルタント								1		1	0
サンゲツ							1	1	0	0	アイテック								1(1)		1(1)	0
UDI 確認検査							1(1)	1(1)	0	0	RCエイジ								1(1)		1(1)	0
環境デザイン計画							1	0	1	0	シームレス								1(1)		1(1)	0
綜企画設計							1	0	1	0	ジールアソシエイツ								1		1	0
空間工学研究所							1	0	1	0	インクス								1		1	0
増田建築構造事務所							1	0	1	0	シーエーリーディング								1		1	0
日本上下水道設							1	2	1	2	0	ジャイロ							1(1)		1(1)	0
総計	0	0	4(2)	3	0	0	0	0	0	0	18(7)	21(1)	22(9)	24(1)								

表-5E 就職先の内訳〈建材・エンジニアリング〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
新日鉄エンジニアリング							2(1)	0	2(1)		興和								1	1	0	0
TOTOエンジニアリング							1(1)	0	1(1)		内山アドバンス								1	1	0	1
ナイス							2(1)	0	2(1)		コヤマ工業		1								1	0
不二サッシ							1(1)	1(1)	0		化研マテリアル								1(1)		1(1)	0
コイズミ照明							1(1)	1(1)	0		東邦レオ								1(1)		1(1)	0
総計											総計	0	0	1	0	0	0	0	7(5)	4(2)	8(5)	4(2)

表-5F 就職先の内訳〈コンピュータ・情報〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
日本デジタルデザイン							1	1(1)	0	1(1)	プレジジョンシステムズ			1							1	0
ノバシステム							1	1	0	1	日積サーベイ									1	0	1
富士ソフト技研							1	1	0	1	総計	0	0	1	0	0	0	0	2	2(1)	3	2(1)

表-5G 就職先の内訳〈製造業・営繕・その他〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
東日本旅客鉄道							1		1	0	やまと								1(1)		1(1)	0
西日本旅客鉄道							1		1	0	神鋼商事								1		1	0
富士フィルム							1		1	0	ゆりかげエレクトロニクス								1(1)		1(1)	0
電通							1		1	0	山小電機製作所								1(1)		1(1)	0
関電工							1		1	0	ハートウエル								1(1)		1(1)	0
総合警備保障							1		1	0	海光電業								1(1)		1(1)	0
富士急行							1		1	0	DR								1		1	0
日立インターメテックス							1		1	0	ナラ・デザイン合同会社								1(1)		1(1)	0
豊田自動織機							1(1)		1(1)	0	DSプロモーション								1(1)		1(1)	0
フジフーズ							1		1	0	ダイトレコーポレーション								1(1)		1(1)	0
総計											総計	0	0	0	0	0	0	0	20(9)	0	20(9)	0

表-5H 就職先の内訳〈官公庁・法人〉

注：(財)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計			
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		
埼玉県庁							1	1(1)	0	1(1)	三島市役所								1(1)		1(1)	0	
千葉県警							1		1	0	浜松市役所									1		0	1
墨田区役所								1	0	1	日本大学理工学研究所研究員										0	1	
江戸川区役所							1		1	0	日本大学理工学部建築学科助手				1							0	1
川崎市役所								1(1)	0	1(1)	日本大学短期大学部建築学科助手			1(1)								1(1)	0
我孫子市役所							1		1	0	厳島神社									1		1	0
総計											総計	0	0	1(1)	2	0	0	0	5(1)	4(2)	6(2)	6(2)	

表-5I 就職先の内訳〈進学〉

注：()内は女子内数

	学部	大学院	計		学部	大学院	計
	日本大学大学院	55(10)	2		57(10)	専門学校 ICS カレッジオブアーツ	1
東京大学大学院	2		2	総合職ヒューマンアカデミーデザインカレッジ	1(1)		1(1)
首都大学東京大学院	1		1	日本外国語専門学校	1		1
千葉大学大学院	1		1	カマタメイクアップスクール	1(1)		1(1)
東京都市大学大学院	2		2	留学希望	1		1
神奈川大学大学院	1(1)		1(1)	その他	22(7)	13(1)	35(8)
総計					89(20)	15(1)	104(21)

表-6 企業内定の応募方法

	学部	大学院	計	比率
教室推薦	2	1	3	1.4
研究室推薦	9	5	14	6.7
縁故推薦	0	0	0	0.0
自由応募	147	44	191	91.8
総計	158	50	208	100.0

注：官公庁、法人、大学院進学、自営業を除く。

表-5J 就職先の内訳〈自営業〉

注：()内は女子内数

	学部	大学院	計		学部	大学院	計
	建設	1			1	設計事務所・インテリア・コンサルタント	1
総計					1	1	2

平成22年度 短期大学部建設学科 オリエンテーション報告

江戸、明治から平成へ：東京の様相を実感する

1年クラス担任



隅田川テラス散策から江戸東京博物館へ



世界遺産登録を待つ、国立西洋美術館での芸術鑑賞

2012年、東京タワーが電波塔としての役目を終え、21世紀初頭を風靡する東京スカイツリーへとバトンタッチされるなか、短大建設学科では、江戸、明治から平成へと東京の様相を実感することを目的とし、本オリエンテーションを企画しました。実際に建築空間に身をおくことで、往時の人々の生活の息吹を肌で感じるとともに、最新の技術を駆使し構築されている建造物に日本古来の伝統技術が息づいている様子を事前学習するなど、建築的観察眼を養ってほしいとの思いが基軸となっています。

日本橋をはじめ、隅田川テラスの散策により橋梁のディテールを観察し、それらの歴史を江戸東京博物館で再認識し、戦後の復興期から平成の今日に至るまで、“温故知新”から“次世代への息吹き”を体得することができたのではないのでしょうか。

船橋キャンパスを飛び出し、学生諸氏76名と専任、非常勤講師の計92名がおりなす江戸、明治、現代に渡る建築探訪の旅の一端をご紹介します。

平成22年5月20日（木）午前9時、小雨模様の駿河台校舎5号館前広場に集合、大型バス2台に分乗し、日大理工学部を後にしました。間もなく、明治の橋：日本橋（M44、妻木頼黄）で下車し、大正の橋：永代橋（T15、山田守・山口文象ほか）から昭和の橋：清洲橋間の隅田川テラスを散策、ダイナミックなアーチ橋と対照的な女性的で優雅なシルエット。おりしも、松本零士氏デザインの新型水上バス「ヒミコ」が眼前を通過。「かっこいい～！あれに乗りたい」と、未来に夢を馳せた瞬間でした。

隅田川テラス散策から江戸東京博物館へ。全員で記念撮影後、エスカレーターでエントランス階へ到着。お江戸日本橋のジオラマが眼前に広がり、一気にタイムスリップしたような精緻な江戸時代の街並み模型、生き生きとした庶民の生活の一端を垣間見ることができ、かわら版売りに扮したボランティアが外国人対象のガイドを行っているのが印象的でした。

敷地内を通過し、都立横網町公園内の震災復興記念館（S6、伊東忠太、佐野利器）、震災記念堂（S5、伊東忠太）（現・東京都慰霊堂）へ。大正・昭和初期の造形を知り、関東大震災の惨状を目の当たりにするとともに、日大建

築科創設者が関与した建物として、感慨もひとしお。なかでも、陳列室のシンメトリーな空間構成とトップライトによる自然光導入は、現代においても目を見張るものがありました。

天候不順ながらも、予定どおり午前中の建築探訪を終え、塔体の高さが東京タワー（333m）を越えて間もない東京スカイツリーを車窓から眺め、待望のランチビュッフェ会場となるホテルへ。

アジアからヨーロッパまで、世界各国のサラダ、スープ、肉・魚料理をとりそろえ、シェフが目の前で焼く鉄板ステーキと窯焼きピザ、好きな具をのせて自由につくれる「海鮮丼」とパエリア、各種トッピングのアイスクリームやケーキのデザートまで、バラエティーに富んだビュッフェ形式が大好評。学生諸氏のみならず、教員からの評判も上々でした。

満面に笑みをたたえ、午後は、ル・コルビュジエが唯一日本で設計した国立西洋美術館へ。従前、酸性雨でずさんでいたロダンのブロンズ像も、世界遺産登録候補となった現在では、見違えるように修復され、さらにレトロフィット工法により、耐震性が強化されるなど、上野公園内は集積した文化施設を広大な杜が包む「知の地」、文化の宝庫となりました。

以上、20世紀を代表する建築家の設計による建物探訪を終え、最後の訪問先「三菱一号館美術館」へ。おりしも開催中の「マネ展」は、夕方にもかかわらず入場待ち状態。わが国初のオフィスビル街は、この1号館により幕を開け、一丁倫敦と呼ばれた赤煉瓦のオフィスビル街は、今日のコンクリートと鉄とガラスの20世紀的オフィス街へと変身したのでした。当該レンガ壁の一部は、船橋校舎図書館脇にも陳列されています。空調設備一体型LED照明や芸術性の高い環境共生技術が展開され、まさに21世紀のグリーンビルディングそのものです。

時空を共有し数々の芸術作品にふれるなかで、先生方や友人知己と深まったさらなる親睦の環。これらが、短大建設学科時代の良き思い出となり、個々人の脳裏に刻まれることを願っています。

（くろきふみお、よしのやすこ・教授）

阪神・淡路大震災

清水 泰

私が建築関係で現在までに経験した最大の出来事は、「阪神・淡路大震災」です。現地に出かけ、あまりにも悲惨な災害状況を目の当たりにした時の衝撃は、今でもはっきりと思い出します。

災害が発生した時、私は青森県八戸市にいました。前年に発生した「はるか沖地震」の被害状況を調査していたのです。こちらの方も震度Ⅵで被害は相当大きかったのですが、「阪神・淡路大震災」には比べられません。

私は長い間、日本建築学会の「災害委員会」の委員を務めていました。このため、海外の地震災害の状況に関しては十分な情報を持ち合わせています。海外の地震災害は極めて悲惨なことが多いのですが、耐震設計技術が高度に進んでいる日本で、それらの被害に匹敵する悲惨な状況が現実に発生するとは正直考えられませんでした。

私の専門分野は、「既存建築物の耐震補強方法」です。日本の既存建築物が、大地震に対して十分な耐震性能を有していないことが大前提となっている研究テーマです。

頭では、日本の建築構造物も大地震に対してそれほど安全とはいえないことは十分に理解していたつもりです。ですが、あまりに悲惨な現実を突き付けられると大きく動揺しました。

工学院大学教授の広沢雅也先生が、すぐさま多くの大学の先生方に呼びかけ、建築構造の専門家たち100人を超す大きなボランティア組織を立ち上げました。私は幹事として参加し、現地には合計10回前後出かけました。ボランティア活動に協力してくれるたくさんの大学生や大学院生、設計事務所の方々と一緒に、大阪のカプセルホテルに泊まり、被災地の中を歩きに歩いて活動しました。

被災地の救助活動や復興のスピードは、現地の建築物が利用可能かどうかにか大きくかかっています。仮設建物やテントだけで救助活動や復旧活動を実施することには限界があります。また、現地で被災した方々も、自分の住居の安全性に大きな疑問や不安を抱えていては、思うように活動ができません。建築構造の専門家が、多数の建築物に対して安全性を確認することが急務です。安全な建築物を判定すれば、そこをベースキャンプにして救助活動や復興活動はより一層の成果を上げることができ

ます。

ボランティア活動に参加して、専門家がそれぞれの知識を生かして活動することの大切さが身にしみて理解できました。また、自分の専門知識の価値を再認識することができ、自分が何者で何のために勉強しているのか少しつかめた気がしました。

現在、「阪神・淡路大震災」の被災経験を契機として、「建築物の耐震改修の促進に関する法律（促進法）」が制定され、日本全国で耐震性能の低い建築物の洗い出し作業（既存建築物の耐震診断）が行われています。また、耐震診断により耐震性能が劣ると判定された建築物に対しては、耐震改修工事が急ピッチで実施されています。私もこれらの動きに合わせて、さまざまな場で協力をしています。

そこで強く感じることは、専門知識を有する有能な技術者が大変に不足しているということです。せっかく耐震改修工事を実施しても、担当した技術者のレベルが低く、設計内容のピントがずれていてほとんど効果が期待できないものや、無理な耐震改修設計となっており、現場で対応できないものなど問題の多いケースが決して少なくないのが現状です。

現在の需要の大きさを考えると、講習会程度では多数の技術者養成は困難です。基礎的な知識だけでも大学でしっかり勉強しておく必要があると強く感じています。

「阪神・淡路大震災」は関西の特殊な事情で発生した災害ではありません。関東でも、「関東大震災」から90年近くが経過して、危険性が高まっている可能性があります。

多くの学生諸君が、大学でしっかり勉強して、社会で役立つ技術者に成長してくれることを期待しています。

（しみずやすし・非常勤講師）

筆者略歴

1948年
1976年

群馬県生まれ
日本大学大学院理工学研究科
修士課程修了（小野研究室）
1978～89年 東京都立大学工学部助手
1989～2010年 東京工業大学附属科学技術高
校教諭
1981年～現在 日本大学理工学部非常勤講師



建築の螺旋空間と 『場所の空間学 環境・景観・建築』

宇杉和夫

筆者略歴

1946年 埼玉県生まれ
1975年 日本大学大学院理工学研究科修士
課程建築学専攻修了（宮川研究室）
1975年～ 同理工学部建築学教室



「私と建築」を特別講義「私と建築計画学史」から紹介する。初回は高橋鷹志先生にお願いした。環境に対する視点についての高橋先生の真正面から取り組まれた論説にまずは驚かされた。内容は小冊子にして希望の学生に配布する。2回目は鈴木成文先生にお願いする予定であった。私は建築の研究を集合住宅論から始め、その後の設計体験から日本の集合居住理論再構築が必要と考えた。その序論が『日本住宅の空間学』で、鈴木先生はその目的を最初から読み取り、以来にこやかに声をかけてくださった。これからという時期の悲しみ、合掌。その序章と住宅計画への展開の一部「個室とコモンスペース：相隣コモンスペースとの関係へ」を雑誌『住まいと電化』7月号に掲載した。10年前の授業でも紹介している。『事例で読む現代集合住宅のデザイン』は地域環境形成の立場から参加した。特別講義第2回目を小川信子先生にお願いすることができた。小川先生は吉武泰水・鈴木成文両先生のご指導を得ている。テーマは建築学会「近代の空間システム・日本の空間システム特別研究」の延長である。最初は伊藤鄭爾先生の予定であった。ご相談日朝、先生から今日入院するという電話で不可能となった。以後、建築歴史意匠で山口廣、農村計画で青木志郎、建築都市計画で上田篤の各先生のお話をいただき、都市計画の石田頼房、建築計画の鈴木成文両先生他の計画は実現できなかった。

『場所の空間学 環境・景観・建築』を2年前に出版し今年の都市住宅学会賞著作賞をいただいた。講評「本書は、著者が長年にわたって建築計画や住宅計画の講義などの中で、意欲的にテーマとしてとりあげてきた自らの膨大な研究分析の中から、『多様な地域空間文化・空間システムを尊重する空間形成計画手法の再構築』にとって不可欠と思われる事柄を軸に、建築・都市を学ぶ次世代の学生が順を追って学べるように編集した教科書でもあり、啓蒙書でもある。序章では、20世紀と21世紀のパラダイムの違いを7つの節に分けて論じ、それ以降を、自然環境と人間の初原的關係から論じ上げる「環境」についての第1章、人間の空間認識とそこで生じる意味から論じ上げる「居住」についての第2章、世界の風土と比較文化論に始まり日本型の地域空間のシステムを論じ上げる「都市」の第3

章で構成しており、明快かつ総合的記述となっている。人間と住宅と都市、そして時間と文化の関連を体系的に示した、極めて都市住宅学的な著書である点が評価された。」

以前、『20世紀の風景：近代建築の風景』と『風景の建築』を著し、4年生の建築計画の資料に含めた。現在では社会と学術にこの視点が拡大している。その中に下記の文がある。「(V.) スカーリーはライトに、コルビュジエに、アールトにさえ、地域の神秘的なものを見ている」。コルビュジエは国際建築ではなく世界建築を目指した。ライトは近代建築に対して有機建築を提示した。近代建築は古代と古典の再解釈の系譜の上にあった。黄金比・モデュールが代表的である。ライトはマヤの螺旋（左旋回）をタリアセンのマークにしている。コルビュジエは「ムンダネウム」を提案した。国際と「世界」は異なる。世界には連帯に至る前の民族と地域の古代がある。選択したのが「螺旋」（右旋回）という場所の記憶、黄金比の根原則であった。博物学は古代・未開文化と生物に注目する。両者には関連性があり、その象徴に螺旋がある。ポロブドゥールと同じように回りながら頂上を目指し、頂上の入口から内部空間を下っていく。後にコルビュジエは無限成長美術館の空間形式をつくる。上野の近代美術館では19世紀ホールを巡って上り、内部を閲覧する。ポロブドゥールと同じ周囲の景観を巡って上るアプローチは実現していない。ライトのグッゲンハイム美術館ではムンダネウム同様内部空間の螺旋を回って閲覧する。ミュージアムはミースのベルリン国立美術館に限らず巡回する空間である。博物館成立にはあらゆる存在、博物学書誌学、古代・永遠、生命と死への回帰があった。リートフェルトのシュレーダー邸に日本の古代・近世の原風景がある。出雲大社神魂神社の神殿の螺旋と、鹿島神宮の神殿の螺旋の東西空間軸は日本列島の公共空間文化にまだ持続継承している（『場所の空間学』）。単純な機能主義脱機能主義はそれを断絶する側となった。ブルース・ガフがいる。私がそう確認したのは学部を出て設計計画の実務を経て大学院に戻る頃であった。現在はこれらを持続継承するコミュニティアーキテクトについて学会と地域で議論している。（うすぎかずお・准教授）

新任教員・非常勤講師紹介

建築学科

五十田 博 先生

(非常勤講師・建築構法Ⅱ)

略歴

- 1992年 東京大学大学院博士課程中途退学
- 1992年 信州大学工学部社会開発工学科助手
- 1997年 建設省(現独立行政法人)建築研究所主任研究員
- 2004年～ 信州大学工学部建築学科准教授



建築構法を学ぶひとつの目的に、これから建築を学ぶ上での共通言語を身につけるということがあります。英語学習の際に単語を身につけることと同じです。しかし、単語を身につけただけでは優れた英文は書けず話せません。同じように、用語を身につけただけではよい建築はできず、用語をつなぐ技術が必要です。これも建築構法を学ぶ目的のひとつです。統合化されたものを理解するためには、実際につくられていく現場をみて、でき上がった空間にふれることが大切です。まちにはたくさんの事例があふれています。机上だけでなく、たくさんの例をみて、ふれてください。(いそだひろし)

建築学科

川崎直宏 先生

(非常勤講師・住環境計画)

略歴

- 1977年 京都大学工学部建築学科卒業
- 1979年 同大学院工学研究科修士課程修了
- 1979年～ (株)市浦都市開発建築コンサルタンツ(現(株)市浦ハウジング&プランニング)
- 2008年～ 同専務取締役東京事務所長



現在、建築や住宅を取り巻く環境は大きく変化し、建築家の仕事や建築を担う者の役割は大きく変容しています。我々は、状況を的確に認識し、社会や現実社会の中での建築のあり方を展望することが重要です。かつて、住宅建築は「単なる建築技術者であるだけでなく、住宅供給の企画に参画する経済学者・社会学者・財政学者であり政治家でなければならない。狭い技術者の視野にとじこもってはいけない。」(西山卯三)と提言された。とくに、今後の建築業界を担っていく学生たちには、時代状況を真摯に見つめ、建築・住宅のあり方や建築家の役割を考える姿勢を大切にしてもらいたい。(かわさきなおひろ)

建築学科

河内一泰 先生

(非常勤講師・デザイン基礎、建築設計Ⅰ)



庭の家



略歴

- 2000年 東京芸術大学大学院修士課程修了
- 2000年 (株)難波和彦+界工作舎
- 2003年 河内建築設計事務所設立

学生の頃を思い返すと、つくりたいものを考え、スケッチをして、模型をつくり、それを覗き込んでいろいろと想像をふくらませ、友人や先生と話し、また考える、という繰り返しでした。独立した今では、完成した建物を実際に体験していろいろと考えることができますが、基本的には学生の頃と同じように、つくることと考えることを繰り返しています。私にとってはそのループをどこまで育てることができるかが大きな課題です。学生の皆さんはまだそれを始めたばかりですが、お互いにとって刺激になるようにいろいろな話をしていきたいと考えています。(こうちかずやす)

大学院建築学専攻

清 広歳 先生

(非常勤講師・建築基礎構造特論Ⅱ)

略歴

1981年 日本大学理工学部建築学科卒業
 1983年 同大学院理工学研究科博士前期課程建築学専攻修了(榎並研究室)
 1983年～ (株)大林組



私は日本大学で学部、大学院(博士前期課程)と学び、就職した後に博士(工学)の学位を授与されました。加えて、本年後期から大学院において講義をさせていただくことになり、母校に心から感謝するとともに、若い後輩に会うことを楽しみにしています。講義の内容は、普段は目にしませんが建物で大切な役割を担っている「杭基礎」や、建物竣工後は忘れられてしまいますが地下躯体の構築では重要な「山留め」などです。では、授業で会いましょう。(せいひろとし)

建築学科

古澤大輔 先生

(非常勤講師・デザイン基礎, 建築設計Ⅰ)



熊川の集合住宅2

略歴

2000年 東京都立大学工学部建築学科卒業
 2002年 同大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
 2002年～ メジロスタジオ設立・共同主宰



建築家にはさまざまな能力が求められます。建築やその背後にある都市の抱える複雑な諸問題を把握し、その解決策をさまざまな属性の人々に提示し、理解されなければなりません。僕は大学を出てすぐに事務所を構えて実務の世界に入りましたので、建築を設計するという実際の営みを通じて、建築をつくるという社会的行為の重要性を再認識しました。受講者の皆さんには、今後の自分の姿を想像し、どれだけ自分の設計行為にリアリティをもたせ、相対化できるかということに意識しながら課題に取り組んでほしいと思います。皆さんとの対話の中で飛距離のある提案が生まれることを期待しています。(ふるさわだいすけ)

建築学科

本間 至 先生

(非常勤講師・建築設計Ⅰ, Ⅱ)



赤堤通りの家

略歴

1979年 日本大学理工学部建築学科卒業(近江研究室)
 1979～85年 林寛治設計事務所
 1986年～ 本間至／ブライシュティフト設立



大学を卒業してから31年間、一貫して住宅設計を続けることができました。建築家として住宅設計する以上、その軸足をしっかりともちつ必要があります。住宅そのものが暮らしを支える日常的なものである以上、その軸足は暮らしから物事を発想していくことに他ならないと思っています。基本的な暮らし方は人が人である以上、変わりようがなく、そうであれば住宅を設計するときの考え方も、短い年月のなかで大きく変わるものではないと考えています。逆にその基本的なところを大切に考えることで、暮らしから考える家づくりの大原則とし、それを軸足に住宅設計を続けています。(ほんまいたる)

建築学科

安原 幹 先生

(非常勤講師・建築設計Ⅰ, Ⅳ)



カドマルビル

略歴

1996年 東京大学工学部建築学科卒業
 1998年 同大学院修士課程修了
 1998～2007年 山本理顕設計工場
 2008年～ 日野雅司, 柗澤麻利と SALHAUS 共同設立



設計案を、ああでもないこうでもないとつくってはこわしつつ、さまざまな思考を積み重ねていくと、突然いろいろなことがうまくいき、ジャンプする瞬間が訪れることがあります。その瞬間は大袈裟でなく、体がふわりと少し浮くような感覚になります。私は現在でも、この感覚を味わうために設計を生業にしているといっても過言ではありません。大学での設計課題は、構想を形にして人に伝えるという作業の、最高のトレーニングです。大いに頭と手を動かした上で、一人でも多くの人に、ジャンプする瞬間の喜びを味わってほしいと思います。(やすはらもととき)

大学院建築学専攻

山梨知彦 先生

(非常勤講師・設計方法特論)



木材会館



略歴

- 1984年 東京藝術大学卒業
- 1986年 東京大学大学院都市工学専門課程修了
- 1986年～ 日建設計
- 現在、設計部門副代表兼設計室長

今年から、日本大学の非常勤講師として新たに参加させていただきます日建設計の山梨です。素材の新しい使い方に興味があり、今まで「神保町シアタービル」や「木材会館」といった仕事を担当してきました。また建築に関わる構造や環境エンジニアリング、そして設計手法自体にも興味をもっており、最新の三次元CADを使った設計手法であるBIMなどについても、実務の中で実践をしてきました。こうした実務家としての経験を生かして、日本大学の学生の皆さんに、何らかの刺激を与えられるよう頑張っていきたいと思っています。

(やまなしともひこ)

建築学科

山村能郎 先生

(非常勤講師・不動産マーケティング)

略歴

- 1996年 東京工業大学大学院理工学研究科社会工学専攻博士課程修了
- 1996～97年 香川大学経済学部専任講師
- 1997～2004年 同助教授
- 2004年～ 明治大学大学院グローバル・ビジネス研究科准教授



不動産のマーケットはここ10年余りの間に大きな変貌を遂げています。グローバル化、IT技術の発展とともに、より金融市場との結びつきが強くなり、マクロ経済・世界市場の影響を色濃く受けるようになってきました。このような環境変化の中、不動産が生み出す価値を理解し、不動産マーケットを読み解くための技術としての経済分析ツールが、不動産ビジネスではますます重要になってきています。より豊かな都市空間を創出するために、いかに不動産を上手に利用していけばよいか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。(やまむらよしろう)

短大建設学科

保坂裕梨 先生

(助手)

略歴

- 2008年 日本大学短期大学部建設学科卒業(小石川研究室)
- 2010年 同理工学部建築学科卒業(今村研究室)



この春より、短期大学部建設学科の助手を務めさせていただくことになりました保坂です。学生時代はとくに建築設計に興味をもち、小石川研究室では建築の本質的な考え方、また、初めて設計の厳しさや忍耐力を学び、学部編入後今村研究室では、作品を提案する上での建築の社会的なあり方、問題点など建築の奥深さを再認識させていただきました。私が建築に熱意をもてたのも、先生方との出会いが大きく影響しています。学生の皆さんもさまざまな出会いを通じて建築に正面から向き合っほしいと思います。まだまだ未熟な私ですが、どうぞよろしくお願い致します。(ほさかゆり)

アートのための 新しい場所ができました

佐藤慎也



窓が開放されたコミュニティスペース 完全なホワイトキューブによるギャラリー

アートセンターの誕生

秋葉原に「3331 Arts Chiyoda」がオープンしました。1975年に建てられた練成中学校をアートセンターへとリノベーションしたもので、その改修設計を若手建築家ユニット＝メジロスタジオとともに行いました。メジロスタジオは3人組。古澤大輔さんは現在本学科の非常勤講師（p.13参照）、馬場兼伸さんと黒川泰孝さんは皆さんの先輩です。その他、構造設計に岡田章先生、大塚眞吾さん（日大OB）、宮里直也先生、屋上菜園計画に山崎誠子先生に協力していただいています。運営団体を選出するコンペにアーティストの中村政人さん率いるコマンドAとともに参加し、2年の歳月を経て完成に至りました。ここは、中村さんがアートセンターの構想を抱いて以来、13年間掛けてようやく実現した場所です。3331の名前は、江戸一本締めの手を打つリズムを数字で表したもので。アートセンターと呼ばれていますが、その内容は多岐に亘るもので、全体を把握するためには実際に訪れてもらうしかありません。1階のギャラリーでは展覧会が開催され、教室であった活動スペースではさまざまなアーティストやクリエイターが展示などの活動を行っています。

改修は、隣接する練成公園と一体となった計画が実現できたため、芝生が広がる公園から大階段、デッキ、コミュニティスペースへと続く場所をつくり出し、これまで校舎の裏側であった公園側に、全面的に開放できる大きなガラス窓を取りつけました。ギャラリーはアーティストが主導する施設にふさわしい展示空間とするため、完全なホワイトキューブと呼ぶべき徹底した改修を行う一方で、コミュニティスペースや活動スペースは、むしろ学校がもっていた記憶をそのまま残した最小限の改修に留めることで、対比する場所をつくり出しています。

ギャラリーへの3つの提案

3331のギャラリーを計画する際、「閉じていない展示室」、「映り込む艶のある床」、「リノベーションならではの魅力」という3つのことを考えました。これらは、2006年に海外派遣研究員としてドイツの美術館に1年間滞在したときに、ヨーロッパの美術館を見て回り、現代

美術のための展示空間に対するアイデアを整理したことが元になっています（「駿建」2007年7月号参照）。

3331がリノベーションであったことから、ギャラリーを計画する部屋にも既存の窓が開いていました。それを有効に使うことで、外部の環境を取り込むことができるとともに、自然光による採光を可能とする閉じていない展示室を計画しました。しかし、元々の展示壁面が少なく、窓から見える風景が魅力的なものではないことから、実際にはラウンジの一部に窓が残されたのみでした。

現代の美術鑑賞において、単に額縁の中の絵を見るだけでなく、その作品が置かれた展示空間自体を体験することが重要となってきています。そのため、床面はマットな表情のものより、壁に設置された作品が床に映り込むような艶があるものの方が、豊かな展示空間を提供できると考えました。3331では、完全なホワイトキューブを実現する艶やかな真っ白い床を実現しています。

とくに現代美術館では、異なる役割のためにつくられた既存の建築物を再活用し、歴史的な背景や特異な形状をもつ展示室が実現されています。3331のギャラリーも、基本的にはホワイトキューブでありながら、リノベーションならではの複雑な形状をもっていたり、教室のフローリングや給食室の壁のタイルを残すことにより、展示空間に個性をもたせています。

新しい場所

個人的な話ですが、16年前に提出した自分の修士設計は、横浜の倉庫をリノベーションすることで現代美術館をつくるものでした。当時は現代美術のための場所なんてほとんどありませんでした。その意味で、その頃から長い時間を掛けて考えてきたことの一端が、この3331という形で実現できたように思っています。設計者としての仕事は終わりましたが、3331というアートのための新しい場所はできたばかりです。これからの活動こそが、ぼく自身が本当に見てみたかったものです。駿河台キャンパスから歩いて15分のところに3331はあります。ぜひ皆さんも訪れ、新しいアートの目撃者となることを期待しています。（さとうしんや・助教）

■三橋博巳教授が、日本不動産学会会長に再任された。2期目の任期は5月から2年間。

■2008年に改修が行われ、現在は建築学科棟として使用されている「日本大学理工学部駿河台校舎5号館」が、「第19回BELCA賞 ベストリフォーム部門」(主催:建築・設備維持保全推進協会)を受賞した。この賞は優良既存建築物を表彰するもので、1959年に竣工した「ニューブルーリズム建築」の代表作に対する改修が、「耐震性の向上」を主目的として、その建築の存在意義と歴史的継続性を担保しながら、現代の最先端技術とあるべき現代建築の意義を表明するものと評価された。この設計には、今村雅樹教授、井上勝夫教授、古橋剛准教授、高宮眞介元教授、石丸辰治元教授、早川眞元教授が5号館改修検討委員会として参加した(詳細は2008年7月号)。

■佐藤光彦研究室の「かまぼこカーテン」が、「八幡浜アートプロジェクト 最優秀賞」(主催:八幡浜芸都実行委員会、㈱日本建築家協会四国支部)を受賞した。愛媛県八幡浜市がかまぼこの名産であることから「かまぼこ板」を用いた公園内のアート(東屋)に対する提案が求められ、最優秀案は八幡浜の市民ボランティアとともにセルフビルドで制作を行うというもの。8月に完成予定であることから、完成作品の詳細は次号に紹介。



「かまぼこカーテン」

■小石川正男短大教授、高田康史短大副手、横村隆子短大非常勤講師連名の「現代の「ニワ」を育てる一住み続けるまちの居場所づくり」が、「第12回まちの活性化・都市デザイン競技 まちづくり

教室ぶろむな一ど

月間実行委員会会長賞」(主催:まちづくり月間実行委員会、(財)都市づくりパブリックデザインセンター)を受賞した。宇都宮市小幡・清住地区における「地域資源を活かした活力ある街並み形成と居住環境の向上」をテーマに選ばれた。

■小野志門氏(佐藤光彦研'10年修了)の「不忍池霧の葬斎場—都市公園を利用した火葬施設及び墓地の設計—」が、「トウキョウ建築コレクション2010全国修士設計展 迫慶一郎賞」(主催:トウキョウ建築コレクション実行委員会)を受賞した。全国から一同に集めた修士設計の中から、審査員による一次審査で選ばれた20点前後の作品について、展示、公開審査・講評会が行われた。また、同氏の「透明に残る家」が、「第16回ユニオン造形デザイン賞 大賞」(主催:(財)ユニオン造形文化財団)を受賞した。「透明な家」をテーマに、安藤忠雄審査員により171点より選ばれた。



「不忍池霧の葬斎場—都市公園を利用した火葬施設及び墓地の設計—」



「透明に残る家」

■永井佑季さん(岡田研D2)、岡田章

教授、宮里直也助教、斎藤公男名誉教授連名の原著論文「Basic Study on Multi-Bay Horn-Shaped Membrane Roof Evaluation of Wind Load and Influence of Supporting System on Structural Behavior under Winds」が、INTERNATIONAL JOURNAL OF SPACE STRUCTURES(2010年25巻1号)に掲載された。

■本杉省三教授、佐藤慎也助教、山崎誠子助教、山中新太郎助教、梅田綾元助手、長谷川洋平元助手が執筆した『建築デザインの基礎 製図法からデザインまで』(彰国社)が刊行された。

■山崎誠子助教が執筆した『山崎流 自然から学ぶ庭づくり!』(明治書院)が刊行された。

■「日本大学理工学部船橋クラブハウス」が6月15日に竣工した。日本大学理工学部キャンパスワーキンググループ(グループ長:今村雅樹教授、担当:山中新太郎助教)が設計に携わった(詳細次号)。

■5月24日(月)~29日(土)にNU建築週間が開催され、岩井光男氏、山本理顕氏、小西泰孝氏、大野博史氏の講演会、「修士設計・卒業設計展」「桜建賞の歩み」「OBの業績」の展示などが行われた。



山本理顕氏(撮影:大西正紀)



小西泰孝氏、大野博史氏(撮影:大西正紀)

駿建目次

2010年7月号 Vol.38 No.2 通巻159号

表紙「3331 Arts Chiyoda」

設計:佐藤慎也+メジロスタジオ

構造設計:岡田章+大塚真吾+宮里直也

撮影:松淵得雅

2010年 関西研修旅行報告

2

私と建築

10

平成21年度 建築学科就職状況

4

新任教員・非常勤講師紹介

12

平成22年度 短期大学部建設学科

9

アートのための新しい場所ができました

15

オリエンテーション報告

9

教室ぶろむな一ど

16